2022年度シラバス

科目名:英語研究法	担当者:本田 伊早夫・大塚 賢一・Stephen Clarke・辻 のぞみ・大西 美穂・三輪 恭子・福本 陽介・塚本 江美	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	4
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】大塚賢一（高等学校教諭）、辻のぞみ（日本政府観光局）
英語学・言語学、英米文化、英語教育学、応用言語学、観光学など、各分野についてそれぞれ４回の授業を受けながら学ぶ。授業の方法、評価方法など、さらに詳しい内容については、それぞれの分野／担当の第1回目の授業において明示する。

授業の到達目標
英語および関連する様々な分野の学びを通し、多角的な視点から「研究」を深めることができるようになる「(DP)」。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○実践的かつ専門的な英語力
◎国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
◎高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
課題や参考図書を各授業担当者から指示するので、読書や文献調査の習慣をつけること（４時間以上）。授業において提示した課題(試験、レポート等)に対するフィードバックは、次回授業にて行います。

評価方法
授業の参加態度、課題、小テスト等に基づき評価し、各授業者による評価をまとめ、総合的に判断する。評価の配分割合、さらに詳細はそれぞれの分野／担当しの第1回目の授業において明示する。

教科書	参考図書
原則として使用しない。ただし、購入が必要なもの等は随時連絡する。	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	言語学（1）　本田
02	言語学（2）　本田
03	言語学（3）　本田
04	言語学（4）　本田
05	専攻科における研究　大西
06	研究に必要な文献の種類　大西
07	辞書と言語学　大西
08	Extensive Reading research　クラーク
09	Story listening research　クラーク
10	Vocabulary research　クラーク
11	Views on language learning　クラーク
12	地域の国際化（1）　塚本
13	地域の国際化（2）　塚本
14	地域の国際化（3）　塚本
15	言語研究と哲学　福本
16	英語学と応用言語学　福本
17	グローバル化と英語教育　福本
18	多文化共生の中での英語　福本
19	観光英語検定と通訳案内士試験　辻
20	英語による訪日観光案内1　辻
21	英語による訪日観光案内2　辻
22	発表　辻
23	教育測定の基礎　大塚
24	実例から学ぶ教育測定　大塚
25	最新の論文から学ぶ教育測定（1）　大塚
26	最新の論文から学ぶ教育測定（2）　大塚
27	文学史　三輪
28	テクストへの取り組み　三輪
29	テクストの背景　三輪
30	テーマの絞り込みと文献検索　三輪
31	なし

2022年度シラバス

科目名:英語学特論	担当者:大西 美穂	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
現在、英語は世界の様々な地域で公用語あるいは通用語として使用されています。土着の言語ではなく英語という言語を選択した社会に起こった様々な文化・社会的現象を知ることがこの講義の主な内容です。視聴覚教材も活用しながら、これら新しい諸英語の言語としての特徴にも触れることで、人間にとって言語とはどのようなものかという問題を考えていきます。授業は調査と報告を基盤に、意見交換の形で進めます。【AL】

授業の到達目標
英語で英語学の専門書を購読する基礎学力を身につける(ESDP1)
世界の英語の多様性の背景を知る(ESDP2)
人間にとって言語とはどのようなものかを考察する力を養う(ESDP3)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○実践的かつ専門的な英語力
◎国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
◎高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
各項目について提出物を課すので、十分な準備をすること：2時間
指定教材を再読すること：１時間
授業で扱った言語現象に相当する現象を読書時、映画視聴時などに留意する：１時間

評価方法
授業参加度20%　発表・報告40%　レポート40%
講義中にフィードバックを行う。

教科書	参考図書
本名信行（2003）『世界の英語を歩く』集英社新書　￥760+税	平賀正子（2016）『ベーシック新しい英語学概論』ひつじ書房、その他授業で紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
英和・和英辞書を必ず持参してください
連絡手段は第１回の授業時で示す

01	世界の英語事情　考察の枠組み
02	国際英語、新英語、世界諸英語とは
03	ノンネイティブの英語事情：ヨーロッパ
04	アジアの英語とその背景
05	アフリカの英語とその背景
06	まとめ（１）用語の確認、アジア英語作品の視聴
07	ネイティブの英語：英語の歴史概観
08	アメリカ英語の多様性
09	カナダの英語
10	イギリスの英語
11	オーストラリア・ニュージーランドの英語
12	言語政策と英語：映像作品と新聞記事
13	まとめ（２）用語の確認、アイルランドの映像作品視聴
14	日本における英語
15	理解度の確認とまとめ
16	なし

2022年度シラバス

科目名:英語音声学特論	担当者:本田 伊早夫	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
英語における音の体系について理論的な理解を深めると共に、より正確な発音を身につけるよう、練習を行っていく。特に、より自然なスピードで無意識的に正確な発音ができるよう、（単語単体で発音するのではなく）長い文章を発話する練習に取り組んでいく。【ＥＮ】

授業の到達目標
発音記号が表していることを正確に理解し、辞書を十分活用できること、英語における音の体系について英語学習初心者にもわかりやすく説明し、基本的な発音指導ができる段階まで理解を深めること（英語という言語についてその音の仕組みを十分理解している）(DP)。また、より正確な発音を身につけること（英語によるスムーズなコミュニケーションがとれる）(DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○実践的かつ専門的な英語力
◎国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
◎高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業で配布されたプリントをしっかり整理・管理し、授業中の説明と合わせ、その内容をよく復習すること。また、疑問、質問がないか常にチェックし、次の授業に備えること。各授業4時間程度の授業時間以外での学修が必要。

評価方法
授業中に実施するまとめテスト（QUIZ、Summary）（60%）と授業への参加状況（40%）を基に評価する。まとめテストは採点後返却しフィードバックを行う。

教科書	参考図書
使用しない。適宜プリントを配布する。	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・英和、あるいは英英辞典を毎回持参すること。
・日常の英語学習の中で常に発音記号を辞書でチェックするよう心がけ、発音記号が表していることを十分理解できるよう努めること。
・教員の連絡先、連絡方法、オフィス・アワーは授業中に連絡する（研究室は２－７）。

01	Introduction
02	Vocal organs
03	Consonant; Place of articulation, Manner of articulation 1
04	Consonant; Place of articulation, Manner of articulation 2
05	Consonant; Place of articulation, Manner of articulation 3
06	Quiz, Presentation 1 QUIZ
07	QUIZ
08	Vowel 1
09	Vowel 2
10	Vowel 3
11	QUIZ
12	QUIZ
13	Syllable and Stress 1
14	Syllable and Stress 2 (Presentation 5)
15	Summary
16	No Class

2022年度シラバス

科目名:日英対照言語学	担当者:大西 美穂	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	4
		必須.選択	選択

授業概要と方法
複雑な言語現象を理解するためには、なんらかの理論的枠組みが必要となる。本講義は日英語の言語現象を言語理論を通して考察することで、言語への洞察力を養うことを目標とする。理論の理解、言語分析、考察までを通して扱い、理解を確認するための課題に取り組む。[AL]

授業の到達目標
語学と言語学の違いを理解する。 (DP)
日英語の語彙や文法構造の対照研究を通して、人間が持ちうる多様な見方や世界観を知る。 (DP)
対照研究の方法を理解し、言語分析の基盤を築く。 (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○実践的かつ専門的な英語力
◎国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
◎高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
事前に配布資料を読む 1時間
練習課題の提出準備 1時間
参考文献の読書 2時間

評価方法
授業参加度50%、演習課題50%
各テーマについての質問と回答を授業の最後に行う。発表準備から発表まで随時コメントを返す。

教科書
資料配布

参考図書
授業で案内する
安藤貞雄 (2005) 『現代英文法講義』開拓社.
高見健一 (1997) 『機能的統語論 (日英語対照による英語学演習シリーズ)』くろしお出版
寺澤 盾 (2016) 『英単語の世界:多義語と意味変化から見る』中公新書
Swan, Michael. (2015) Grammar. Oxford UP.

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
配布資料の整理を徹底すること。ノート、辞書は必ず持参のこと。

01	学びのポイント【1】:社会と言語
02	地域方言、社会方言:年齢、ジェンダー、職業、時代
03	英語の地域・社会方言はどのように翻訳されているか
04	映画のキャラクターの表現研究:ライオン・キング、アナと雪の女王、マイ・フェア・レディ
05	言語政策
06	Rabbit-Proof Fence:2002 Australian drama film
07	学びのポイント【2】:音声、表記
08	entertainmentのカタカナ表記
09	夢姫, Princess : キラキラネームは英語にもあるか
10	バンド、ベッド、karaoke, futon: 外来語、漢語、和語、借用
11	ミュール、下駄:外来語の受け入れやすさ
12	インターネット、アーティスト、アスリート:外来語の3つのパターン
13	事前学習:カタカナ表記
14	学外研修:データ収集
15	事後学習:データの整理と分析
16	前期の課題の発表と講評
17	学びのポイント【3】:語彙、文法
18	チョコ、カニかま、TV, telly: 略語とその動機
19	うれし-さとhappi-ness: 派生接辞の基本/うれし-み、名詞-ness: 派生接辞の発展
20	犬たち、靴たち? dogs, shoes:文法的「数」
21	驚かす、喜ばす、surprise, please:刺激と感情
22	学びのポイント【4】:意味論、語用論、言語と文化
23	雨に降られちゃって:英語にはない間接的な受け身
24	giveはあげる、くれる、もらう?:授受表現と話し手の視点
25	させていただいてよろしいでしょうか、do you mind if I...:上下、恩恵、遠近の関係
26	よろしくお願いします:英語になりにくい定形表現

27	テーマの選択
28	発表準備
29	テーマについての発表
30	振り返りと展望
31	なし

2022年度シラバス

科目名:アメリカ文学特論	担当者:三輪 恭子	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業では、アメリカ合衆国の小説の購読と解釈をします。あらかじめ与えられた課題を読んだ上で、授業での講義とディスカッションを通して文学作品とその背景との関係を考察します。受講者には作品ごとにMoodle上でコメントを提出し、各自の意見をまとめ、最終課題のペーパーに取り組んでもらいます。取り上げる作品は短編小説や映画を中心とし、原文、翻訳、映画版を並行して使用します。抑圧や差別といった、世界共通ではあるけれどアメリカに特に顕著に表れる問題を認識することにより、現代社会で生きていく私たち自身の意識を問い直すことにつながるでしょう。
授業内の活動を通し、問題を調査し考究した上で結論を出す能力、およびそれを発表する能力を身につけます。(DP)

授業の到達目標
①文学作品を通して、アメリカ合衆国におけるマイノリティの社会歴史背景を理解する。
②アメリカ文学作品を原文で読み、解釈することができる。
③文学作品を通して、批判的思考能力を身につける。 (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】 ○実践的かつ専門的な英語力 ◎国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力 ◎高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
各授業において、以下の通りの授業外学習活動が求められます。
準備学習(3時間):事前に与えられたリーディング課題。
事後学習(1時間):授業内で学んだ内容を自分なりにまとめておくこと。このまとめは、期末ペーパーに利用することを視野に入れています。

評価方法
授業への参加態度(ディスカッション、授業内発言等を含む)30% レスポンスペーパー 30% 学期末ペーパー40%。
学期末ペーパーは提出後、個別にフィードバックします。

教科書	参考図書
配布プリント、清水晶子著『フェミニズムってなんですか？』 (文春新書)	授業中に指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
英語力と分析力の両方が求められます。自分の「読み方」に意識的になり、テクストと対話しながら読んでいきましょう。
オフィスアワー、教員連絡先は授業中に指示します。

01	イントロダクション:アメリカ小説とそれを読む意味
02	小説の読み方について
03	"Désirée's Baby" Kate Chopin
04	"Désirée's Baby" Kate Chopin
05	『フェミニズムってなんですか？』
06	Priscilla
07	Priscilla
08	Priscilla
09	小論文の書き方、テーマの探し方
10	"The Thing Around Your Neck" Chimamanda Ngozi Adichie
11	"The Thing Around Your Neck" Chimamanda Ngozi Adichie
12	『フェミニズムってなんですか？』
13	"They're Not Your Husbands" Raymond Carver
14	"They're Not Your Husbands" Raymond Carver
15	文学研究の方法とまとめ
16	なし

2022年度シラバス

科目名:イギリス文学特論	担当者:井川 恵理	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
ディプロマポリシーにある「国際社会への深い知識」「国際社会において必要な教養、他者理解の能力」に欠かすことのできない連合王国イギリスにおける代表的な文学を取り上げる。原文の音と文体を理解し、実際に声に出して読むことで作品における音の重要性や感情の表現を理解する。また、時代背景について理解する。【AL】

授業の到達目標
①代表的な作品の音の世界の重要性を理解することができる。【DP】②時代的、文化的背景から、文学作品の社会性を理解することができる。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○実践的かつ専門的な英語力
◎国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
◎高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
課題となる作品については声を出して原文を読み、辞書を用いてその世界を理解する努力をすること。各自選んだ作品の一部を暗誦する。(４時間)

評価方法
1. 授業準備と振り返り（リフレクション） 40%, 2. 朗読、暗唱 20% , 3. 中間テスト 20%, 4. まとめの試験・Course Reflection Portfolio 15%　各課題については、オンライン上、また、直接の返却によってフィードバックを行う。

教科書	参考図書
プリント配布	阿部公彦著『英詩のわかり方』（研究社）、Iona and Peter Opie, The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes (Oxford University Press),「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
文学作品は音での伝達がとても大切である。原文のリズム、音を味わい、自分のものとするまで何度も声を出して読んでほしい。研究室７３１０　メールアドレス ikawa@ohkagakuen-u.ac.jp

01	Introduction: British Literature and Japan（イントロダクション　イギリス文学と日本）
02	English-Speaking World and 'Igirisu' : Characteristics of Four Nations and Their Literature （「イギリス」の多義性と文学）
03	English-Speaking World and Rhymes (1) Nursery Rhymes, strange stories and characters（伝承文学　マザーグース　奇想天外な物語）
04	English-Speaking World and Rhymes (2) Nursery Rhymes, tongue twisters（伝承文学　マザーグース　早口言葉）
05	English-Speaking World and Rhymes (3)　_Winnie-the-Pooh_: Pooh the Poet（『クマのプーさん』：詩人としてのプー）
06	Rhyme Recitation Contest, Poetry from the U.K.　（暗唱大会、イギリス詩の世界）
07	Midterm Exam, Story & Nature: Peter Rabbit Series (1)（中間テスト、物語と自然：『ピーター・ラビット』作者ビアトリクス・ポター）
08	Story & Nature: Peter Rabbit Series (2)（物語と自然：『ピーター・ラビット』の動物たち）
09	Novel and Wars: Chronicles of Narnia (1)（小説と戦争：『ナルニア国物語』シリーズ）
10	Novel and Religion: Chronicles of Narnia (2)（小説と宗教：『ナルニア国物語』シリーズ）
11	Introduction to Shakespeare: British Isles in the 16th-17th Centuries, England and Scotland（シェイクスピア導入：16-17世紀のブリテン島、イングランドとスコットランド）
12	Rhythm in Plays: William Shakespeare (1564-1616) _Macbeth_: Incantation of Witches （舞台劇の中の韻: ウィリアム・シェイクスピア (1564-1616)『マクベス』魔女の呪文）
13	Rhythm in Plays: William Shakespeare (1564-1616)_Macbeth_: Macbeth and Lady Macbeth（『マクベス』マクベスとマクベス夫人）
14	Rhythm in Plays: William Shakespeare (1564-1616) _Macbeth_: 'Tomorrow' speech（『マクベス』「明日」スピーチ）
15	Plays, Novels, & Poetry: Recitation Contest and Summary Exam/CRP Explanation　（『マクベス』暗唱大会　まとめ課題の説明）
16	Final Exam/ CRP まとめの試験または課題

2022年度シラバス

科目名:語用論と外国語学習	担当者:大西 美穂	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
外国語学習者は実際の言語使用に際し、文法規則からは予測のつかない表現や、辞書の語義では訳せない解釈に出会い戸惑うものである。本講義では、文法に偏った学習、また一方で、コミュニケーションに偏った学習の各種問題を語用論の見地から検討し、文法からコミュニケーションへと至る連続性の中の大きなギャップを埋める外国語学習のあり方を考える。前半は論文の読み方と「言語行為」の理論を理解する。後半は講義と演習を繰り替えす方式で、ポライトネス、呼びかけ方の観点からコミュニケーションを考える。[AL]

授業の到達目標
語用論の基本的な考え方を理解し、英語学習の体験に理論的根拠を与えるものであることを理解する。 (DP)
英語で表現された文学作品や映像作品から語用論が問題としている言語使用のあり方を読み取る。 (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○実践的かつ専門的な英語力
◎国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
◎高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
事前に配布資料を読んでおく：1時間
授業で紹介した作品を読んで内容を確認：1時間
演習課題の準備：2時間

評価方法
授業参加度50%、テスト・課題50%
各テーマのデータ収集後、随時提出、フィードバックとともに返却する。テスト・課題は採点後に返却し、併せて模範解答を示す。

教科書	参考図書
豊田 昌倫（編）『英語のスタイル：教えるための文体論入門』研究社	「自分らしさ」と日本語（ちくまプリマー新書）, 中村桃子著

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
頻繁に辞書を使用するため毎回持参のこと。

01	語用論の射程とその応用について
02	論文講読：言語行為と英語資格試験(1)前半
03	論文講読：言語行為と英語資格試験(2)後半
04	まとめの確認テスト
05	ポライトネス理論
06	Alice's Adventure in Wonderlandの呼びかけ方データ収集
07	データ分析と文献購読（邦訳『不思議の国のアリス』との比較）
08	Harry Potter and the Philosopher's Stoneの呼びかけ方データ収集
09	データ分析と文献購読（邦訳『ハリー・ポッターと賢者の石』との比較）
10	Frozenの呼びかけ方とデータ収集
11	データ分析と文献購読（邦訳『アナと雪の女王』との比較）
12	文献購読：人間関係を構築する呼びかけ方
13	学習者用辞書における記述の確認
14	文献購読：ことばを変えて関係を変える
15	まとめと展望
16	なし

科目名:Advanced Reading Ⅰ	担当者:Indu Juneja	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
The primary aim of this class is to further develop the English reading proficiency of students and increase their vocabulary. We will also aim to improve specific skills for reading comprehension and to encourage use of analytical and critical thinking skills. [EN] [AL]

授業の到達目標
Students will increase their reading speed to close to 150 words per minute, improve their understanding of short intermediate level texts and learn many new words and phrases. [DP] In addition, they must reach an extensive reading target of at least 100,000 words. They will work in small groups to discuss the content of all the texts they read and their opinions on the topics therein. [DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎実践的かつ専門的な英語力
○国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
○高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students need to review the vocabulary learnt in every class (準備学修　３０分) and read a lot of graded readers outside of class (事後学修　９０分).

評価方法
Participation in class activities (40%), homework and preparation (20%), extensive reading of graded readers (30%) and quiz and test scores (10%) will be considered for the final grade. The extensive reading goal of 100,000 words is an essential requirement. Feedback will be given during class following the completion of reading activities.

教科書	参考図書
Active Skills for Reading 2 by Neil Anderson (Cengage)	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Don’t forget to bring your textbooks and all your handouts to each class. Participate actively in all activities. Do all assigned homework on time and review what you study in class. Finally, do your best and have fun using English with your teacher and c

01	Course Introduction
02	Unit 1 part 1
03	Unit 1 part 2
04	Unit 2 part 1
05	Unit 2 part 2
06	Unit 3 part 1
07	Unit 3 part 2
08	Review of Units 1 to 3
09	Unit 4 part 1
10	Unit 4 part 2
11	Unit 5 part 1
12	Unit 5 part 2
13	Unit 6 part 1
14	Unit 6 part 2
15	Review of Units 4 to 6
16	Unit 7 part 1
17	Unit 7 part 2
18	Unit 8 part 1
19	Unit 8 part 2
20	Unit 9 part 1
21	Unit 9 part 2
22	Review of Unit 7 to 9
23	Unit 10 part 1
24	Unit 10 part 2
25	Unit 11 part 1
26	Unit 11 part 2
27	Unit 12 part 1

28	Unit 12 part 2
29	Review of Units 10 to 12
30	Review of all units
31	No test

2022年度シラバス

科目名:Writing & Presentation Ⅰ	担当者:Eileen Sakakibara	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
The aim of this course is to develop student's writing and presentation skills in English.【AL】【EN】

授業の到達目標
The goal is for students to be able to organize their thoughts and write essays and reports and give presentations. (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎実践的かつ専門的な英語力
○国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
○高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students are expected to come to class prepared and with all class materials. (1 hours)

評価方法
Grades for this course will be based on class participation 30%, assignments 30%, and presentation 40%.
Feedback will be given frequently following the returning of assignments and presentation.

教科書	参考図書
Winning Presentations Morita/Harada SEIBIDO ISBN978-4-7919-3424-9	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Do all assigned homework on time! If you are absent, contact a classmate and find out what you can do to catch up.

01	Class orientation
02	Writing a review article
03	Informative Presentation
04	Informative Presentation
05	Informative Presentation
06	Review and writing assignment
07	Check presentation skills
08	Check presentation skills
09	Brainstorming for presentation topic
10	Group discussion
11	Group discussion
12	Preparation for presentation
13	Presentation
14	Presentation
15	Presentation
16	Class review
17	Writing short speech
18	Persuasive Presentation
19	Persuasive Presentation
20	Persuasive Presentation
21	Review and writing assignment
22	Presentation skill
23	Presentation skill
24	Brainstorming for presentation topic
25	Group discussion
26	Group discussion
27	Preparation for presentation
28	Presentation
29	Presentation
30	Presentation
31	No test

2022年度シラバス

科目名:Advanced English Practicum Ⅰ	担当者:辻 のぞみ	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
TOEIC TEST 模擬・練習問題に取り組みながら、時々英語素材のリーディングや文法事項の確認なども取り入れ、少人数授業の利点を生かして履修学生の特性に応じて総合的な英語力を身につけていく。毎回予習課題と復習課題を課し、授業ではそれに対するフィードバックとして解説をすると共に、理解度チェックと定着の為の小テストを行なう。

授業の到達目標
TOEIC スコアの向上及び総合的な英語力の向上をめざす。(DP) 少人数授業であることから、履修学生の現状と課題を把握の上、学生にあった目標を設定し、学生に合わせた授業を行う。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎実践的かつ専門的な英語力
○国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
○高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：次の授業の予習課題。
事後学修：授業後の復習課題。テストに備えた勉強。
以上を合わせ１回の授業につき平均４時間程度。

評価方法
毎回の復習課題と予習課題（50%）と授業への参加積極性とテスト（50%）を基に評価する。

教科書	参考図書
使用しない。適宜プリントを配布する。	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
英和、あるいは英英辞典を毎回持参すること。

01	Introduction
02	予習課題解説、TOEIC練習問題1
03	復習課題確認、予習課題解説、TOEIC練習問題2
04	復習課題確認、予習課題解説、TOEIC練習問題3
05	復習課題確認、予習課題解説、TOEIC練習問題4
06	復習課題確認、予習課題解説、TOEIC練習問題5
07	復習課題確認、予習課題解説、TOEIC練習問題6
08	復習課題確認、予習課題解説、TOEIC練習問題7
09	復習課題確認、予習課題解説、TOEIC練習問題8
10	復習課題確認、予習課題解説、TOEIC練習問題9
11	復習課題確認、予習課題解説、TOEIC練習問題10
12	復習課題確認、予習課題解説、TOEIC練習問題11
13	復習課題確認、予習課題解説、TOEIC練習問題12
14	復習課題確認、予習課題解説、TOEIC練習問題13
15	まとめと確認テスト
16	なし

2022年度シラバス

科目名:Advanced English Practicum Ⅱ	担当者:Eleanor Sugiura	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
The aim of this course is to further develop the students' communicative competence, with a focus on speaking and listening skills [DP]. Students will learn vocabulary concerning social issues and conversational phrases used in discussions 【EN】【AL】.

授業の到達目標
Students will learn to complete a wide range of communicative tasks that require them to discuss a variety of social issues and world events {DP] so that they can hold a successful conversation with a helpful native speaker 【EN】【AL】.

At the end of this course students will have developed their critical thinking and discussion skills through collaborative work 【EN】【AL】.

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎実践的かつ専門的な英語力
○国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
○高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students should prepare for each class by reading relevant texts beforehand (60 minutes), and should review the new vocabulary and phrases that they learn (60 minutes).

評価方法
Grades will be decided according to the level of participation in all class activities (40%), homework assignments (30%) and tests and quizzes (30%). Feedback will be through graded reports and presentation rubrics.

教科書	参考図書
Materials will be provided by the teacher.	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Make efforts to understand difficult texts and don't be afraid to make mistakes when expressing your thoughts and opinions.

01	Course introduction
02	Communicative tasks and discussion: Learning Music Improves Maths
03	Communicative tasks and discussion: Telling Lies
04	Communicative tasks and discussion: Animal Empathy
05	Communicative tasks and discussion: Superstitions
06	Communicative tasks and discussion: Culture and Alcoholism
07	Communicative tasks and discussion: Divorce
08	Communicative tasks and discussion: Boredom
09	Communicative tasks and discussion: Gambling
10	Communicative tasks and discussion - students prepare an article.
11	Communicative tasks and discussion - students prepare an article.
12	Communicative tasks and discussion - students prepare an article.
13	Communicative tasks and discussion - students prepare an article.
14	Communicative tasks and discussion - students prepare an article.
15	Communicative tasks and discussion - students prepare an article.
16	No test

2022年度シラバス

科目名:英語特別実習	担当者:大塚 賢一・大西 美穂	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	実習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	6
		必須.選択	選択

授業概要と方法
海外で、所定の条件を満たした上で専門分野の研究の一助となる基礎研究と英語教育機関における研修を行なった学生に、単位を認定する。

授業の到達目標
専門分野により異なるが、海外体験により、研究に関連する知識と英語や英語圏文化等に対する理解を深める「(DP)」。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎実践的かつ専門的な英語力
○国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
○高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・出発１ヶ月以上前に実習計画／内容を学科に提出すること
・帰国後１ヶ月以内に実習報告書を学科に提出すること

評価方法
単位認定基準
専門分野によって実習内容が異なるため、実習内容については論文指導担当教員とよく相談すること。単位認定には次の要件を満たす必要がある。
＊海外滞在期間が６週間以上であり、そのうち３週間以上の英語研修を含む

単位認定必要書類
①実習計画書、実習報告書
②語学研修プログラム修了証（要実習期間の証明）、成績証明書、研修プログラム内容を記した書類

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この実習の単位を申請する際には、各プログラムが実施される前に必要書類・実習内容等について論文指導担当教員および教務課に相談すること。実習前後に提出された書類をもとに学科で審議し、単位認定の可否を判断する。海外プログラムに参加する学生は、「海外渡航届（様式３）」等を国際交流支援センターに提出する必要があります。

01	実習先のプログラムによる。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:海外英語研修	担当者:大塚 賢一・大西 美穂	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	実習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
海外の英語教育機関において、所定の条件を満たした上で学習した学生に「海外英語研修」として単位を認定するものです。

授業の到達目標
実践的な英語運用能力と異文化理解力を養うことを目標とします「(DP)」。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎実践的かつ専門的な英語力
○国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
○高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
この実習には事前事後指導は行われません。研修手続きから研修中に起こるであろう様々な問題に学生自ら積極的に関わり、それを乗り越えることも学習の一部です。普段から積極的に「英語で」コミュニケーションをとる努力をして下さい。

評価方法
以下のいずれかを満たした場合、単位を認定します。
①本学の提携大学付属の英語学校において４週間以上の英語研修プログラムを終了した場合
②上記と同等に値するものと学科が承認した教育機関で４週間以上の英語研修プログラムを終了した場合
単位認定に必要な書類
①の場合、プログラム修了証（要実習期間の証明）、成績証明書
②の場合、プログラム修了証（要実習期間の証明）、成績証明書、研修プログラム内容を記した書類

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教務課が単位申請等の窓口となりますので、参加プログラムが実施される前に必要書類等について相談してください。実習終了後は必要書類を提出し、学科が単位認定認定の可否を判断します。海外プログラムに参加する学生は、「海外渡航届（様式３）」等を国際交流支援センターに提出する必要があります。

01	実習先のプログラム内容による。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:英語特別研究Ⅰ	担当者:大西 美穂	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	4
		必須.選択	必須

授業概要と方法
言語現象を適切に記述・分析するために、その基盤となる理論の習得、先行研究の批判的検討、議論の運び方を理解する。
並行して言語データの収集方法を学び、実際に収集したデータの分析の進捗を報告し、全員で議論する。[AL]

授業の到達目標
英語学の理論、英語データ収集・分析方法、論文における議論や構成・書式といった各テーマについて、演習課題を用いて実践に理解する。[ESDP2, 3]
最終的に研究テーマの構想をまとめ、発表する。[ESDP3]

【到達目標と深く関連する学科DP】
○実践的かつ専門的な英語力
◎国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
◎高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業で行う発表や報告の資料作成、議論のための準備 (2時間)
研究テーマの先行研究入手など論文執筆に向けた準備 (1時間)
総合的な英語力の向上のための地道な語学学習 (1時間)

評価方法
授業参加度40%、発表と提出物60%
授業でフィードバック

教科書	参考図書
各自の研究テーマに沿った文献を使用	石黒圭『この1冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本』、An A-Z of English Grammar & Usage 他

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
提出物の期限厳守、辞書持参のこと

01	英語学と言語学
02	文献のレベル：辞書、一般書、文法書、専門書を読み比べる 科学の基盤にある思想と研究のアプローチについて
03	練習課題(1)：進め方と文献選定
04	図書館演習(1)
05	練習課題(2)：文献を読む
06	練習課題(3)：文献を読む
07	練習課題(4)：言語表現データ収集
08	図書館演習(2)
09	練習課題(5)：論文の構成、先行研究を引用、要約する
10	練習課題(6)：収集した言語表現を説明する
11	練習課題(7)：分析と考察
12	練習課題(8)：結論をまとめる
13	練習課題(9)：参考文献リストの作成と原稿の構成
14	練習課題(10)：課題提出と講評
15	前期のまとめと研究の構想発表
16	後期の目標確認と論文の執筆計画
17	文献の選定と購読
18	文献購読(1)各研究テーマに応じたもの
19	文献購読(2)
20	文献購読(3)
21	文献購読(4)
22	文献購読(5)
23	先行研究比較と問題点の絞り込み
24	先行研究のまとめ(1)
25	先行研究のまとめ(2)
26	言語表現データの収集
27	言語表現データの収集と分析
28	データの分析と発表原稿の作成
29	発表原稿作成

30	発表
31	なし

2022年度シラバス

科目名:ジェンダー研究特論	担当者:三輪　恭子	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業では、ジェンダー概念、ジェンダー関連用語、ジェンダー論発展の国際的歩みおよび国内の歩みについて学習したうえで、我々の社会が抱える問題について考えます。あらかじめ与えられた課題を読んだ上で、授業での講義とディスカッションを通して問題の理解を深めます。

そしてさまざまな国際問題、社会問題を少しでも解決の方向に導く手立てを模索します。教科書、プリントを利用し授業を進めます。課題を与えてのディスカッション、ミニレポート提出を予定しています。受講者には作品ごとにMoodle上でコメントを提出し、各自の意見をまとめ、最終課題のペーパーに取り組んでもらいます。
授業内の活動を通し、問題を調査し考究した上で結論を出す能力、およびそれを発表する能力を身につけます。(DP)

授業の到達目標
・ジェンダー概念を正しく理解し、ジェンダー関連用語を身につける。
・ジェンダーに関係する世界および日本の歴史を学び、新しい知識を得る。
・ジェンダーの視点から社会問題をとらえ、それらの問題に向き合うためのヒントを得る。 (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○実践的かつ専門的な英語力
◎国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
◎高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
各授業において、以下の通りの授業外学習活動が求められます。
準備学習(3時間):事前に与えられたリーディング課題。
事後学習(1時間):授業内で学んだ内容を自分なりにまとめておくこと。このまとめは、期末ペーパーに利用することを視野に入れています。

評価方法
授業への参加態度(ディスカッション、授業内発言等を含む)30%　レスポンスペーパー 30%　学期末ペーパー40%。
学期末ペーパーは提出後、個別にフィードバックします。

教科書	参考図書
配布プリント、千田有紀他著『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣）	授業内で指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
身の回りにある問題について、ジェンダーの視点をもちつつ関心を高めて下さい。社会人になってからも役に立つ視点です。教員の連絡先は授業内でお伝えします。

01	イントロダクション（授業概要、評価方法、教科書および参考書等について解説）
02	ジェンダー概念とジェンダー関連用語
03	近代家族とは何か
04	ジェンダー論発展の歴史
05	現代社会と結婚
06	現代社会と子育て
07	労働（１）法律を中心に
08	労働問題（２）ハラスメント問題を中心に
09	中間発表（学期末ペーパーのテーマ）
10	クイアとトランスジェンダー
11	貧困・教育とジェンダー
12	政治参加とジェンダーギャップ
13	女性に対する暴力
14	リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ
15	全体のまとめ
16	なし

2022年度シラバス

科目名:地域研究特論Ⅰ	担当者:梅木 陽子	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この科目は「日本」の歴史的変遷と文化的特徴を把握することを通じて、みなさんの二つの能力を伸ばすことを意図しています。一つ目は国際社会において必要な教養を磨き、他者を理解する能力です。もう一つは自ら問題を発見し、解決を導き出すこと、そしてその解決の過程を説明し、他者と協働する能力です。講義への参加、レポート作成、発表を通じて、自分と他者、日本と海外も視野に入れて思考できるようになることを目指します。【AL】

授業の到達目標
テーマ：日本社会の目に見えないルール。
1）日本的な人間関係について書かれた文章を正確に理解できる。(DP)
2）日本的な人間関係について書かれた文章を批判的に分析できる。(DP)
3）日本的な人間関係のルールを、自分の現実に当てはめて考察できる。(DP)
4）日本文化の特質について自分の発見をわかりやすく説明することができる。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○実践的かつ専門的な英語力
◎国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
◎高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回、以下の通りの授業外学修が必要です。
・準備学習：教科書に目を通す。ワークシートの記入。個人研究のための情報収集。（２時間目安）
・事後学習：指定された文章の批判的分析。（２時間目安）

評価方法
・平常点（授業への貢献、提出物）50%、発表15%、期末レポート35%
・提出物のフィードバックは回収の翌週の授業時に行います。
・発表とレポートの講評・フィードバックは最終授業で実施します。

教科書
中根千枝（1967）『タテ社会の人間関係――単一社会の理論――』講談社

参考図書
アンダーソン・ベネディクト（2007）『想像の共同体』書籍工房早山
李御寧（2007）『「縮み」思考の日本人』講談社
坂口安吾（2008）『堕落論・日本文化私観　他二十二篇』岩波書店
松岡正剛（2006）『17歳のための世界と日本の見方ーセイゴオ先生の人間文化講義』春秋社
中根千枝（2019）『タテ社会と現代日本』講談社

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業の連絡、ハンドアウトの配布、宿題の回収等はMoodleを使用する予定です。

01	オリエンテーション、「国家」・「民族」・「伝統」について一般的な定義と学問的な定義とのズレ。
02	一般的な「国家」・「民族」・「伝統」の意味と、学問的な意味のズレについて講義する。
03	「場」を強調する日本社会の特質について検討し、現実の日本社会でどのような適用が見られるか意見交換をする。
04	「タテ」組織による序列の発達について検討し、序列偏重が現在どの程度見られるか、今後どうなるか予想する。
05	平等組織と「ヨコ」組織の脆さについて説明し、現実の生活の脆弱さについて実例を分析する。
06	「日本的集団」の長所と短所について教科書の内容を精査し、人間関係の基本原理について理解を深める。
07	「契約精神の欠如」と「感情」について教科書の内容を整理し、教科書が書かれた50年前から現在に至るまでに日本社会の変化した部分と変化しなかった部分について検討する。
08	「タテ」社会の人間関係についてまとめ。
09	レポートのアウトライン作成。参考資料の検索。
10	個人発表の準備①。「タテ」社会の人間関係が現代の事象にどう当てはまるか分析する。
11	個人発表の準備②。自分の分析をクラスメイトに分かりやすく伝えるために、原稿と補助資料を準備 個人発表の準備②。自分の調査した内容を吟味して、効果的に伝える方法を検討する。 個人発表の準備②。自分が準備した資料、考察した内容を効果的に伝える方法を検討する。
12	個人発表第一回目
13	個人発表第二回目
14	個人発表に対するフィードバック。期末レポート提出。
15	今学期の振り返りとまとめ。
16	定期試験　なし

2022年度シラバス

科目名:地域研究特論Ⅱ	担当者:三輪 恭子	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【米国】
この授業では、アメリカに住む多様な背景を持つ人々に注目し、アメリカ合衆国の文化と社会における諸問題を考察します。アメリカの歴史において「周縁化」されてきた「他者」の経験に注目し、現代のニュースに取り上げられる問題と関連づけて捉えることで、グローバル化社会に必要な教養と知識を身につけます。

授業の到達目標
アメリカの歴史において「周縁化」されてきた「他者」の多様な歴史的経験について日本語、英語で理解し、歴史記述に対する批判的な視点を身につけることができる。他国の歴史や社会の諸問題を知ることを通して、問題意識をもって現代の日本を生きる私たちの在り方を考えることができる。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○実践的かつ専門的な英語力
◎国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
◎高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
＜準備学習（2時間）＞授業で課題を予習として課す場合があります。（英語で書かれた史料を読むこともあります）
＜事後学習（2時間）＞授業で取り組んだ内容を整理し、扱った諸問題について自分の考えをまとめる。適宜、確認のため、提出を求めます。

評価方法
授業への参加態度（ディスカッション、授業内発言、各テーマについてのコメント等を含む）40%、学期末レポート60%

教科書	参考図書
授業時に資料を配布します。	授業時に指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
資料配布（欠席者用）はMoodle上で行います。連絡はMoodleあるいはメールで行うこと。

01	イントロダクション①：アメリカ研究について、受講者の興味について
02	イントロダクション②：アメリカの地理
03	イントロダクション③：アメリカの歴史
04	多文化社会アメリカ①：建国の理想とアメリカ国家
05	多文化社会アメリカ②：アフリカ系アメリカ人
06	多文化社会アメリカ③：ネイティブ・アメリカン（インディアン）
07	多文化社会アメリカ④：女性
08	多文化社会アメリカ⑤：アジア系アメリカ人
09	多文化社会アメリカ⑤：LGBTQ＋
10	現代の社会問題①：アファーマティブアクションと自由・平等
11	現代の社会問題②：挑戦する居留地
12	現代の社会問題③：Black Lives Matter
13	現代の社会問題④：トランプ大統領のアメリカと格差
14	ディスカッション：「自由と平等」
15	予備日・総括
16	なし

2022年度シラバス

科目名:応用言語学	担当者:大塚 賢一	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】高等学校教諭
言葉と社会や文化との関係、バイリンガリズム、学習者要因、コミュニケーション能力、教授法、母語習得、第二言語習得などの切り口から、英語や言語に対する理解を深めます。

授業の到達目標
1. 「英語」の現状と今後の展開を述べることができる2. 第二言語習得の仕組みを理解し、思い込みや俗説を理論的に批判することができる「(DP)」

【到達目標と深く関連する学科DP】
○実践的かつ専門的な英語力
◎国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
◎高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業で学習したトピックについてのレポートやクイズを毎週行いますので、学習した事を復習して下さい（４時間）。授業において提示した課題(試験、レポート等)に対しては、個別にフィードバックします。

評価方法
毎回のレポートやクイズが70%、プレゼンテーションが30%

教科書	参考図書
ワークシートを毎回配布します	特にありません

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
自分自身の英語学習の現状を常に考えながら、講義に参加してください。

01	応用言語学とは
02	社会階層と言語使用
03	スタイルとレジスター
04	世界における英語の特徴：黒人英語
05	世界における英語の特徴：アジア（インド英語、マレーシア英語）
06	世界における英語の特徴：アジア（フィリピン英語、シンガポール英語）
07	世界における英語の特徴：World Englishes
08	学習者の特性：臨界期
09	学習者の特性：年齢
10	学習者の特性：適性
11	学習者の特性：性格
12	学習者の特性：認知と学習スタイル
13	学習者の特性：学習方略
14	論文から学ぶ最新の応用言語学
15	学習のまとめ
16	なし

2022年度シラバス

科目名:初等英語教育特論	担当者:Deborah Broadby	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This class takes the form of short lectures and many group discussions. {EN} [AL} Printouts, videos and CD's will also be used to help the students better understand a teacher's environment in kindergartens and various other institutes for young learners of English.

授業の到達目標
The main purposes of this course are to develop student awareness of what teaching English to young learners is like, to develop a better understanding of the ways in which children learn English and to acquire some effective teaching techniques. Students will cooperate in small groups to think of ways to teach certain aspects of English to young learners. [DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎実践的かつ専門的な英語力
◎国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
○高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
You will be expected to complete some work at home (2 hours). Some preparation and review will also be required (2 hours).

評価方法
Class Participation 25%、Homework 15%、Report 30%、Final Quiz 30%
Feedback will be given weekly following the returning of homework assignments and quizzes.

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Please try to hand in your homework on time and come to class regularly. Don't be afraid to speak English.

01	Introduction and course outline
02	In search of an approach
03	Child-centered learning
04	A child-centered lesson
05	Games and songs
06	Listening and speaking
07	Review
08	Reading and writing
09	The learning environment
10	Being an effective teacher
11	Looking into the future
12	A child-centered approach in Asia
13	Holidays and culture
14	Group presentation
15	Review
16	NoTest

2022年度シラバス

科目名:日本文学特論	担当者:太田 昌孝	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
西脇順三郎（詩人・英文学者）の作品をもとに、日本文学が受けたイギリス文学、フランス文学の影響について学ぶ。西脇順三郎の詩と詩論をいくつかとりあげ講義しながら、日本におけるモダニズムの受容および発展の経緯が理解できるような講義を行って行きたい。尚、学科のディプロマポリシーに基づき、西脇の英詩についても鑑賞を行う。「（DP）」

授業の到達目標
西脇順三郎の作品に触れることで、受講生の言語感覚を錬磨し､感性を養います。また、西脇の日本語詩と英詩の比較分析を通じて、英語専攻の学生における言語観の助長にも努めたいです。「（DP）」

【到達目標と深く関連する学科DP】
△実践的かつ専門的な英語力
○国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
○高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
普段から身近な日本文学に関するテーマについて観察しておくこと。授業ごとに配布するテキストにはあらかじめ目を通しておくこと。一回の講義につき、予習・復習を含めて４時間を必要とする。

評価方法
成績の評価については、小レポート(30ﾊﾟｰｾﾝﾄ)・期末のレポート(70ﾊﾟｰｾﾝﾄ)により、総合的に評価する。尚、小レポートは評価とアドバイスを付加して返却する。期末レポートについても評価とアドバイスを付加して返却する。

教科書	参考図書 『詩人　西脇順三郎　その生涯と作品』（太田昌孝・クロスカルチャー出版）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
系統的な講義なので欠席しないようにして下さい。

01	オリエンテーション：「文学」が目指すもの
02	西脇順三郎の生涯を学ぶ（1）故郷、小千谷での青年時代
03	西脇順三郎の生涯を学ぶ(2)　オックスフォード大学留学時代
04	西脇順三郎の生涯を学ぶ(3)　モダニズム詩人としての西脇
05	西脇順三郎の生涯を学ぶ(4)　TSエリオットと西脇
06	西脇順三郎の詩集を読む(1)　詩集『amvbarbalia』鑑賞（「天気」・「雨」・「葦」）
07	西脇順三郎の詩集を読む(2)　詩集『amvbarbalia』鑑賞（「太陽」・「眼」・「皿」）
08	西脇順三郎の詩集を読む(3)　詩集『旅人かへらず』鑑賞①
09	西脇順三郎の詩集を読む(4)　詩集『旅人かへらず』鑑賞②
10	西脇順三郎の詩集を読む(5) 詩集『近代の寓話』鑑賞
11	西脇順三郎の詩集を読む(6) 詩集『第三の神話』鑑賞
12	西脇順三郎の詩集を読む(7) 詩集『人類』鑑賞
13	西脇順三郎の英詩を読む(1) 詩集『SPECTRUM』鑑賞①
14	西脇順三郎の英詩を読む(1) 詩集『SPECTRUM』鑑賞②
15	まとめ：英文学と日本文学
16	なし

2022年度シラバス

科目名:日本史特論	担当者:小久保 嘉紀	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
「中世日本と世界」
〈授業概要〉
　鎌倉時代から信長・秀吉・家康の時代を対象に、現在どのような新たな発見や通説の見直しがあるのか、最新の研究成果を踏まえて概説する。また、鎌倉時代から戦国時代にかけて、日本は外国との間でどのように影響を及ぼし合っていたのかについても着目する。なお、社会が大きく変動した戦国時代について、中でも東海地域と関係の深い信長・秀吉・家康について重点的に扱う。
〈授業方法〉
　遠隔授業（オンデマンド型）として、講義資料（板書編・解説編）・授業レジュメを配信する。講義資料（板書編）は、通常の授業の場合に板書で書く内容であり、講義資料（解説編）は、教員が口頭で説明することを原稿化したものである。また、授業レジュメには絵図や参考資料を載せる。なお、毎授業後の小テストへの回答をもって出席とする。

授業の到達目標
　大航海時代の世界の中で、中世日本の人々はどのように外国と付き合っていたのかについて理解する「（DP）」。そして、過去の歴史から得た教訓を生かし、現代の国際社会の中で日本はどのような役割を果たすべきなのかを理解する「（DP）」。また、戦国時代の英文の手紙を読解する「（DP）」。

【到達目標と深く関連する学科DP】
△実践的かつ専門的な英語力
○国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
○高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　準備学修：中学・高校の日本史の、中世に関するところを復習しておくとよいでしょう。（２時間）
　事後学修：授業で挙げた参考文献を読んでみるとよいでしょう。（２時間）

評価方法
　期末レポート70％＋授業後の小テスト30％

〈フィードバックの方法〉
　期末レポートについては、採点返却の上、総評を行う。また、授業後の小テストについては、次回の授業の際に解答についての解説を行う。

教科書
　無し。

参考図書
・『日本中世史』全４巻（岩波新書、2016年）
・『NHKさかのぼり日本史　外交篇』全10巻（NHK出版、2012・2013年）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　コロナ禍の中での授業ですが、心と体の健康を維持して、ともにがんばりましょう。

01	オリエンテーション
02	鎌倉時代―武家社会と元寇―
03	南北朝時代―後醍醐天皇と建武の新政―
04	室町時代①―足利義満と勘合貿易―
05	室町時代②―応仁の乱・明応の政変―
06	戦国時代①―武田信玄と上杉謙信―
07	戦国時代②―戦国の文化・芸能―
08	戦国時代③―戦国の世界と日本―
09	織田信長①―桶狭間・長篠の戦い―
10	織田信長②―信長の国家像―
11	本能寺の変について
12	豊臣秀吉①―秀吉の国家像―
13	豊臣秀吉②―文禄・慶長の役―
14	徳川家康①―松平氏と三河―
15	徳川家康②―関ヶ原の戦い・大坂の陣―
16	無し

2022年度シラバス

科目名:国際ボランティア論	担当者:古藪 真紀子	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
「国際ボランティア」とはなにか。国際協力の基本的な理論や世界の直面する課題にについて知識を深めるとともに、国際協力の様々な方法や考えを理解し、その中での国際ボランティアの役割や活動についての意識を高めることで、国際社会・地域で活躍するための知識と思考力、判断力、表現力を獲得する。また、「ボランティアは偽善か」という問いについて考え、自分なりの「ボランティア像」を構築する。前半は、講義形式の授業となるが、国際ボランティアの活動についてイメージを具体的に持てるように、パワーポイントや映像資料なども使用する。また、実際に国際ボランティアを経験した方を招いた講義となることもある。後半は、青年海外協力隊などを例に、具体的に自分のなりたい国際ボランティアについて考える講義となる。受講生には、講義毎にコメントシートを提出してもらう。

授業の到達目標
・国際ボランティア活動について理解する【DP】。
・国際協力の現状と地球規模の課題について理解し、国際協力の多様な在り方を知る【DP】。
・国際開発計画の歴史的変容及び「持続可能な開発目標（SDGｓ）」の概要を理解する【DP】。
・ボランティアの意義について理解を深め、自分なのなりたい具体的なボランティア像を構築する【AL】【DP】。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
◎高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
ディスカッションの時間を多く設け、学生の積極的な参加が求められるため、日頃から、ニュースなどに触れ、世界情勢に敏感に問題意識をもって自分なりの考えをまとめておくこと。前半は、各回のテーマに沿った具体的な事例について事前に調べレポートで提出する（各回4時間×7回）。後半は、自分なりになりたい国際ボランティアについてのプレゼンテーションに向けた資料作成並びに練習が必要となる（各回4時間×8回）。

評価方法
レポート（30%）、プレゼンテーション（40%）、講義ごと提出のコメントシート（30%）
講義内課題については、次回の授業日で、解説する。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段に関しては、最初の授業で案内する。

01	概論：開発援助・国際協力とは
02	国際協力の理念・政策：人間の安全保障、ミレニアム開発目標、持続可能な開発目標（SDGs）
03	世界の課題（１）：SDGsとわたし（１）
04	世界の課題（２）：SDGsとわたし（２）
05	世界の課題（３）：貧困
06	世界の課題（４）：医療・教育
07	世界の課題（５）：紛争・ジェンダー
08	国際ボランティアとは（１）
09	国際ボランティアとは（２）
10	国際ボランティアの活動:青年海外協力隊
11	ボランティアは偽善か(１)
12	ボランティアは偽善か(２)
13	ボランティアは偽善か（３）
14	プレゼンテーション（１）
15	プレゼンテーション（２）、まとめ
16	なし

2022年度シラバス

科目名:NGO･NPO論	担当者:古藪 真紀子	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
なぜNGOは存在するのか。開発援助の背景とともに、NGO・NPOの種類、役割、活動などの概要や、NGO・NPOによる国際協力の在り方を理解し、国際理解・異文化理解を深める。世界や国内の様々な事例を取り上げ、自ら解決すべき社会課題を明確にする事で、問題発見・解決力を育成する。また、学生のキャリアパスの選択肢の一つとして、NGO・NPOで働くとはどういうことか考えるとともに、もし自分がNGO・NPOの職員だったらどのような活動をすることになるのか、「具体的なイメージ」を構築する。また、参加型ワークショップを通して、NGO・NPOの設立を疑似体験する。特定の教科書は使用せず、プリントや視聴覚教材を使って、NGO・NPOの活動などについて、具体的なイメージを持てるようにする。一方的な講義スタイルではなく、常に受講生の意見を求め、ディスカッションの場を持つ。後半のワークショップは、参加型学習・グループ活動のスタイルで実施するため、受講生の積極的な参加が期待される。また、受講生には、講義毎にコメントシートを提出してもらう。

授業の到達目標
・NGO・NPOの組織・役割・活動・課題について理解する【DP】。
・NGO・NPOによる開発援助や支援活動の在り方を理解する【DP】。
・上記の知識と体験型ワークショップを通して、自ら考え表現する力と国際問題を判断する力を養う【DP】【AL】。
・問題分析や目的分析などのツールを使って、様々な課題に対しての活動や解決策を、自ら考え、表現できるようになる【DP】。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
◎高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
前半は各回のテーマに沿った具体的な事例について事前に調べレポートで提出する（各回4時間×7回）。後半のワークショップでは、グループでの最終発表に向けて、事前に情報を収集し、準備する（各回4時間×8回）。

評価方法
レポート（30%）、ワークショップ発表など講義内課題(40%)、講義ごと提出のコメントシート（30%）
講義内課題については、次回の授業日で、解説する。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段に関しては、最初の授業で案内する。

01	NGO／NPOとは何か（１）
02	NGO／NPOとは何か（２）
03	NGOの活動（１）：貧困
04	NGOの活動（２）：教育・医療
05	NGOの活動（３）：災害・環境
06	NGOの活動（４）：ジェンダー
07	NGOの活動（５）：多文化共生
08	世界の課題とNGO：SDGsクロス（１）
09	世界の課題とNGO：SDGsクロス（２） NGO・NPOの視点から国際協力を考える（２）
10	世界の課題とNGO：SDGsクロス（３）
11	ワークショップ：NGOをつくってみよう（１）
12	ワークショップ：NGOをつくってみよう（２）
13	ワークショップ：NGOをつくってみよう（３）
14	プレゼンテーション（１）
15	プレゼンテーション（２）、まとめ
16	なし

2022年度シラバス

科目名:インターンシップＳ	担当者:大塚 賢一・大西 美穂	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期･後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
インターンシップ（internship）とは、民間企業、行政組織、民間非営利組織等での職業体験学習をさします。インターンシップ S は、１週間程度のインターンシップ・プログラムを終了した学生に１単位を認定するものです。事前指導、研修、事後指導の 3 つのパートにわかれています。

授業の到達目標
職業体験を通して社会の一部を知ることで、見識を広げるだけでなく、自分自身の適正、興味関心を見極め、将来どのような仕事に就きたいか、また、そのためには何をすればいいかを明確化させることが目標です「(DP)」。

【到達目標と深く関連する学科DP】
△実践的かつ専門的な英語力
◎国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
◎高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
より良い研修の実現を目指し、自らインターンシップ先の情報を積極的に集めるなどの努力をして下さい。

評価方法
実習先の評価（50%）と研修日誌・レポート（50%）に基づき評価します（英語特別研究担当教員による）。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日頃から立場や年齢の異なる様々な人と積極的に関わり、適切にコミュニケーションできるようにしておくことが、実習の上でも役立ちます。自ら考え行動すること、物怖じせず、わからないことはとにかく尋ねる姿勢が大切です。学生課職員と担当教員からの指示をよく聞き、有意義な実習にして下さい。

01	【インターンシップの流れ】1. 事前指導：①説明会：前・後期期間中に企業名、各企業の募集人数、実習内容等の説明します（掲示板に情報が提示されるので、掲示板のチェックを怠らないでください。）②募集：希望者が募集枠を上回った場合は、面接等の選抜を実施します ③説明会：留意事項等を説明します ④事前訪問 2. 研修：①実施時期：夏期・春期期間中に実施 ②期間：１週間（企業により異なります）③実習内容：企業により実習形態は異なりますが、多くの場合、インターンシップ受講学生のための特別プログラムが設定され、様々な就業体験が行われます 3. 事後指導 実習報告：インターンシップ期間中に「日誌」「レポート」を提出
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:インターンシップＬ	担当者:大塚 賢一・大西 美穂	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期･後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
インターンシップ（internship）とは、民間企業、行政組織、民間非営利組織等での職業体験学習をさします。インターンシップ Ｌ は、2週間程度のインターンシップ・プログラムを終了した学生に2単位を認定するものです。事前指導、研修、事後指導の 3 つのパートにわかれています。

授業の到達目標
職業体験を通して社会の一部を知ることで、見識を広げるだけでなく、自分自身の適正、興味関心を見極め、将来どのような仕事に就きたいか、また、そのためには何をすればいいかを明確化させることが目標です「(DP)」。

【到達目標と深く関連する学科DP】
△実践的かつ専門的な英語力
◎国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
◎高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
より良い研修の実現を目指し、自らインターンシップ先の情報を積極的に集めるなどの努力をして下さい。

評価方法
実習先の評価（50%）と研修日誌・レポート（50%）に基づき評価します（英語特別研究担当教員による）。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日頃から立場や年齢の異なる様々な人と積極的に関わり、適切にコミュニケーションできるようにしておくことが、実習の上でも役立ちます。自ら考え行動すること、物怖じせず、わからないことはとにかく尋ねる姿勢が大切です。学生課職員と担当教員からの指示をよく聞き、有意義な実習にして下さい。

01	【インターンシップの流れ】1. 事前指導：①説明会：前・後期期間中に企業名、各企業の募集人数、実習内容等の説明します（掲示板に情報が提示されるので、掲示板のチェックを怠らないでください。）②募集：希望者が募集枠を上回った場合は、面接等の選抜を実施します ③説明会：留意事項等を説明します ④事前訪問 2. 研修：①実施時期：夏期・春期期間中に実施 ②期間：１週間（企業により異なります）③実習内容：企業により実習形態は異なりますが、多くの場合、インターンシップ受講学生のための特別プログラムが設定され、様々な就業体験が行われます 3. 事後指導 実習報告：インターンシップ期間中に「日誌」「レポート」を提出
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:海外ボランティア・インターンシップＳ	担当者:大塚 賢一・大西 美穂	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期･後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
専攻科英語専攻が定める所定の条件を満たす海外での１週間程度のボランティア・プログラムあるいはインターンシップ・プログラムに参加し、学科の定める事前及び事後指導を受けた学生に１単位を認定するものです。

授業の到達目標
海外でのボランティアや職業体験を通して、世界情勢や国際支援などの実情を知ること、及び実践的な英語運用能力を養う「(DP)」。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎実践的かつ専門的な英語力
◎国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力
◎高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
参加を希望する学生は、5月、6月に開催される説明会（ハワイ・スタディー・ツアー、海外ボランティア・インターンシップはそれぞれ別開催）に参加し、参加を希望する学生は「海外ボランティア・インターンシップ参加届」を教務課に提出する。また、英語特別研究担当教員に「海外ボランティア・インターンシップ参加届」のコピーおよび、活動内容や旅程等が記載された資料等のコピーを持参し、活動や評価内容等について指導を受ける。
参加後は所定のレポートを担当教員に提出し（英語特別研究担当教員）、活動報告を行う。また、海外プログラムに参加する学生は、「海外渡航届（様式３）」等を国際交流支援センターに提出する必要があります。

評価方法
レポートを評価する（100%）レポートは以下の３点を含むものとする。①事前のオリエンテーション（いつ、何をやったか）、②滞在中の毎日の活動報告（活動日順に記載）、③参加して学んだこと、得たこと、感想など全体のまとめ。書式は以下の通り。①A4３ページ以上（WORDを使用し、ページの書式はフォント10.5、40行40字）②活動内容等が分かる写真等を適宜差し込んで良い

教科書	参考図書 渡航先について調査するための資料など

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
渡航先の基本情報、プログラム派遣先（企業・学校・施設等）の情報、海外ニュース、「海外安全情報（危機情報）」（外務省海外安全ホームページhttps://www.anzen.mofa.go.jp/）から最新情報を得ること。渡航に伴う旅券手配、航空券手配、旅行保険申し込み、現地通貨準備などを進めること。

01	＜事前に行うこと＞ ①説明会に参加（通常5月、6月、12月） ②「海外ボランティア・インターンシップ参加届」を教務課に提出 ③「海外ボランティア・インターンシップ参加届」のコピーおよび、活動内容や旅程等が記載された資料等のコピーを持参し、活動や評価内容等について指導を受ける（英語特別研究担当教員）。 ④所定の事前学習に参加する ＊学科は「ハワイ研修（夏休み）」の募集と、その他のボランティア・プログラム（LA郊外の幼稚園・小学校での研修、マニラやバリでの子供生活支援（夏休み・春休み）の説明会を行う。掲示に注意すること。 ＜渡航先での活動＞ ・活動記録に努める（レポートには日毎の活動記録の記載が必要になるので、適宜メモしたりや写真を撮ったりすること） ＜事後に行うこと＞ ①帰国後、指定された時期までにレポートを作成する ②レポート（研修修了証や参加証明書などがあればそれらも）、写真など研修内容を客観的に証明する書類などを持参し、英語特別研究担当教員）に活動報告を行う。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	

13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:海外ボランティア・インターンシップＬ	担当者:大塚 賢一・大西 美穂	開講学科等	専攻科英語専攻
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期･後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 専攻科英語専攻が定める所定の条件を満たす海外での２週間程度のボランティア・プログラムあるいはインターンシップ・プログラムに参加し、学科の定める事前及び事後指導を受けた学生に２単位を認定するものです。
授業の到達目標 海外でのボランティアや職業体験を通して、世界情勢や国際支援などの実情を知ること、及び実践的な英語運用能力を養う「(DP)」。 【到達目標と深く関連する学科DP】 ◎実践的かつ専門的な英語力 ◎国際社会において必要な教養とそれに基づいて他者を理解する能力 ◎高い英語力と国際社会への深い知識・問題発見・解決力・表現力・他者との協働性
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 参加を希望する学生は、5月、6月に開催される説明会（ハワイ・スタディー・ツアー、海外ボランティア・インターンシップはそれぞれ別開催）に参加し、参加を希望する学生は「海外ボランティア・インターンシップ参加届」を教務課に提出する。また、英語特別研究担当教員に「海外ボランティア・インターンシップ参加届」のコピーおよび、活動内容や旅程等が記載された資料等のコピーを持参し、活動や評価内容等について指導を受ける。 参加後は所定のレポートを担当教員に提出し（英語特別研究担当教員）、活動報告を行う。また、海外プログラムに参加する学生は、「海外渡航届（様式３）」等を国際交流支援センターに提出する必要があります。
評価方法 レポートを評価する（100%）レポートは以下の３点を含むものとする。①事前のオリエンテーション（いつ、何をやったか）、②滞在中の毎日の活動報告（活動日順に記載）、③参加して学んだこと、得たこと、感想など全体のまとめ。書式は以下の通り。①A4３ページ以上（WORDを使用し、ページの書式はフォント10.5、40行40字）②活動内容等が分かる写真等を適宜差し込んで良い

教科書	参考図書 渡航先について調査するための資料など

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 渡航先の基本情報、プログラム派遣先（企業・学校・施設等）の情報、海外ニュース、「海外安全情報（危機情報）」（外務省海外安全ホームページhttps://www.anzen.mofa.go.jp/）から最新情報を得ること。渡航に伴う旅券手配、航空券手配、旅行保険申し込み、現地通貨準備などを進めること。

01	＜事前に行うこと＞ ①説明会に参加（通常5月、6月、12月） ②「海外ボランティア・インターンシップ参加届」を教務課に提出 ③「海外ボランティア・インターンシップ参加届」のコピーおよび、活動内容や旅程等が記載された資料等のコピーを持参し、活動や評価内容等について指導を受ける（英語特別研究担当教員）。 ④所定の事前学習に参加する ＊学科は「ハワイ研修（夏休み）」の募集と、その他のボランティア・プログラム（LA郊外の幼稚園・小学校での研修、マニラやバリでの子供生活支援（夏休み・春休み）の説明会を行う。掲示に注意すること。 ＜渡航先での活動＞ ・活動記録に努める（レポートには日毎の活動記録の記載が必要になるので、適宜メモしたりや写真を撮ったりすること） ＜事後に行うこと＞ ①帰国後、指定された時期までにレポートを作成する ②レポート（研修修了証や参加証明書などがあればそれらも）、写真など研修内容を客観的に証明する書類などを持参し、英語特別研究担当教員）に活動報告を行う。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	

13	
14	
15	
16	